

カンボジア通信

2000年から取り組んできた河合塾のカンボジア教育支援活動として、2004年3月に第4回教育物資寄贈を行いました。今回のカンボジア通信は、この活動の様子とカンボジアの現状を報告します。

〒464-8610 名古屋市千種区今池 2-1-10
河合塾社会貢献事務局 総合政策部内
河合塾カンボジア教育支援グループ

<http://www.kawai-juku.ac.jp/kawaijuku/volunteer/k.html>



発展するカンボジア

近年カンボジアの発展には目を見張るものがあります。首都プノンペンの道路は整備され、モニボン通り（メインストリート）は二輪車と自動車の専用車線に分かれ、交通事情が改善しています。また、地方の道路も ODA による国道整備が進んでいます。プノンペン市内は、近代的な設備をもったホテル、ショッピングセンター、飲食店や外国資本の工場も増え活気に満ちています。反面、市民の収入に比べ物価の上昇が激しく、生活は楽にはなっていない様子です。

都市と農村の乖離

プノンペンをはじめとする都市部とは対照的に、農村の発展は遅れています。農村の月収は 20～30\$程度で、食べていくのが精一杯という生活水準です。国道から外れた生活道路は、整備されないままのデコボコ道で、自動車は時速 15km 程度しか出せません。また、いまだに水道、電気の設備はなく、井戸水や自動車のバッテリーに電灯をつないで暮しています。バッテリーがなくなると、村の中にある「充電屋」にバッテリーを持ち込み、充電してもらいます。生活物資は村の近くのマーケットで売られており、日常生活ではとくに貧窮していることはありませんが、医療施設がほとんどなく、病気になった場合は遠方にある都市まで行かねばなりません。

カンボジア - 日本友好学園

校舎は 3 棟、図書館が 1 棟、合計 4 棟が出来上がっています。グラウンドには、河合塾の先生方をはじめ多くの方々の支援金により砂が入り、サッカーやバレーボールなどができるくらいに整備が進んでいます。また、植林した木々も大きくなり生徒達の憩いの場にもなっています。

第 1 期生は今年の 9 月から 12 年生(高 3)になります。卒業後の進路が課題の一つであり、友好学園の支援 NGO 団体が奨学基金を創設し、大学学費の支援（10 人程度）を計画しています。

小・中学校は国から教科書の支給がありますが（十分ではない）、高校の教科書は支給がないため、50 人に 15 冊程度しかない状況です。河合塾はこのような教科書の購入についても募金から支援する予定です。

第 4 回 教育支援物資寄贈スケジュール

2月	29日	名古屋港より物資搬出
3月	20日	友好学園にスタッフ・物資到着
3月	20日	コンテナより物資搬出
3月	21日	物資の仕分け・生徒交流
3月	22日	贈呈式・生徒交流
3月	23/24日	プノンペン大学や学校視察
3月	25日	日本へ出発。26日早朝に日本帰国

教育支援物資の寄贈

河合塾の“机・椅子”や、全国の塾生・先生・職員の協力で集められた文具や本などコンテナ 3 本分を名古屋港からカンボジアに運搬し、3月20日現地に到着。炎天下の中、物資の整理と仕分けを友好学園の生徒達に手伝ってもらいました。

贈呈式典では生徒や先生方一人ひとりに文具を手渡しました。生徒たちにはボールペンが一番喜ばれます。また、友好学園の周辺や遠方の小・中・高校にも机・椅子などを寄贈しました。カンボジアの生徒たちにとって文具はまだ高価で、手軽に購入することができません。生徒たちは学校に通えること自体が非常に幸せなことであり、家族に感謝しながら一生懸命勉強に打ち込んでいます。そのような状況での文具等の支援は大変感謝されます。

日本では、まだ使えるうちに新しいもの買い換える風潮がありますが、使えなくなるまで使い切ることは非常に大切なことです。身のまわりのものを大切に、それでも有り余っているものがあれば是非カンボジアの生徒たちに寄贈して下さい。このような支援活動を通して、私たち日本人が逆に学び、反省しなければいけないことも、国際理解の重要なことです。



主な寄贈物資

生徒机・椅子	約 500 セット
雑巾・雑巾類	23 本
文房具類	53 ケース
紙・衣類	21 ケース
チョーク	43 ケース
図書	6 ケース



贈呈式



遠方の生徒が学校の近くで暮している家

【カンボジア/プレイベン州】 ♪♪そこで暮らす子供たち☺ ♪♪



カンボジア-日本友好学園は、“長い森”という名前を持つプレイベン州に設置されました。その名の通り昔は森の多い地域でしたが、人口が増えるにつれ日々の生活のために開墾や薪取りが頻繁に行われて、今では木々の少ない、数種類の作物に頼った農業で生活を営む地域となりました。



お米についても、水さえあれば二期作や三期作ができますが、このプレイベン州や隣のタケオ州は、メコン川、バサック川の下流に位置するため、毎年雨季の最後の9月には洪水で田んぼも1~2mの深さに沈んでしまいます。この水がひいた10月にお米の苗を植えて12月~1月にお米を収穫し、このころから乾季が始まるため、どうしても1年に1回しかお米が収穫できません。様々な課題を抱えている現在のプレイベン州は、カンボジアでも最貧地帯と言われています。

ひとくちに“カンボジア”といっても、首都プノンペンのような都会からプレイベン州のような田舎まで様々です。都会で育ち、都会で学んでいる裕福な子供たちは、積極的にによりよい教育を受け、生活もどんどん豊かになっていきますが、多くの田舎と同様に、友好学園が建っているこの地区には、電気・ガス・水道さえもとおってならず、このプレイベン州に暮らす子供たちは、勉強したいと望んでも、それを十分に叶えられない多くの課題を抱えています。



プレイベン州のような貧しい地域に暮らす子供たちは、日常的に家族の一員として幼い頃から家計を助け、わずかな時間を割いて学校に通います。しかし、カンボジアの一般的な学校では、教師が生活のためにアルバイトを掛け持ちし、そのために授業が休講になったり、学習内容が半分以下になったりということが普通になっています。日々の暮らしも、農業に頼るしかなく、学校でさえ十分な教育が受けられない現状は、彼らをさらに厳しい生活へ追い込んでいます。



しかし、プレイベン州の子供たちはいつも明るく、限られた時間の中で精一杯勉強しています。彼らの生活は非常に厳しく、毎日の食費にも事欠き、ノートや鉛筆でさえ、満足に持つことができません。けれど“教育”を受ければ、きっといつか自分達の生活が豊かになる、将来の夢も必ず叶うと信じて学んでいます。

彼らはただ経済的援助をもとめているわけではありません。“自分の力で生きたい”“家族を守りたい”“国を支えていきたい”...そう願って、知識や技術の習得...そしてみずからの自立を夢に描き、教育を受けられる環境を、心の底から望んでいます。そんな彼らの想いが、私達スタッフの原動力となっているのです。



まずは、カンボジアに興味を持ち、そしてカンボジアを知ってください(^)！そして、カンボジアの人々に...そして今の自分に、そして世界中の子供たちに対して、何かを感じることができたら、ぜひ一緒に応援していきましょう！カンボジア教育支援グループは、これからもみなさんとともに活動してまいります！



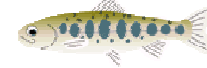
コン・ボーン氏来日記念講演 「激動の時代を生き抜いて ～教育の復興を考える～」



河合塾教育支援の現地窓口である「カンボジア-日本友好学園」代表コン・ボーン氏が来日。4月13日(火)コンピュータ日本学院新大阪校で講演会が催されました。

開講直後の日程にもかかわらず、留学生を含む多数の参加者が集まり、河合塾世界史講師の金先生によるカンボジアの歴史概説、友好学園の様子がわかるビデオなども交えた講演で、現地の状況や課題が丁寧に説明されました。

募金報告と活動計画



2003年度下半期(2003年10月~2004年3月) **募金計: 324,591円**

ご協力いただき、ありがとうございました。

2004年度上半期 活動計画

(2004年4月~2004年9月)

教科書支援: 99,000円

高等部では、現在、3人1冊の割合しか、教科書がありません。約600冊の教科書を寄贈します。



魚の養殖プロジェクト: 165,000円

副食費が十分でない下宿生のために、学校の近くの池で魚の養殖を始めます。1年くらいで、食用にできる大きさになります。

